

令和6年度第1回さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議（要旨）

- 1 日 時 令和6年8月23日（金）15:00～17:00
- 2 場 所 さぬき市役所本庁 附属棟 多目的室
- 3 出席者 **【委員】** 米田委員 小泉委員 長山委員 白川委員 井出委員
久保委員 藤原委員 朝倉委員
【事務局】 向井審議監 間嶋総務部長 多田政策課長 蓮井副主幹
橋本主査 株式会社ぎょうせい木下氏 倉内氏 家久氏
- 4 傍聴者 2名
- 5 会議次第
- 1 開会
 - 2 審議監挨拶
 - 3 自己紹介
 - 4 議事
 - (1)座長・副座長の選任について
 - (2)第2期さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略KPI達成状況について
 - (3)次期総合戦略策定方針及び次期総合戦略策定に向けた点検・評価結果について
 - (4)全体のスケジュールについて
 - 5 事務連絡
 - 6 閉会
- 6 配布資料 **【資料1】** 第2期さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略KPI達成状況について
【資料2】 次期総合戦略策定方針
【資料3】 次期総合戦略策定に向けた点検・評価結果
【資料4】 全体のスケジュールについて
参考資料1：第2期さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略
参考資料2：さぬき市人口ビジョン（令和2年3月改訂）
- 7 議事の経過及び発言要旨

発言者	意見概要
政策課長	<p style="text-align: center;">＜ 開 会 ＞ (15:00)</p> <p>本日はご多忙の中、さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議にご出席いただきありがとうございます。</p> <p>私、政策課長の多田と申します。当面の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いたします。</p>

	<p>それでは開会にあたりまして、審議監より、ご挨拶を申し上げます。</p>
審議監	<p><審議監挨拶></p>
政策課長	<p>皆様方の委員就任にあたっての委嘱状の交付につきましては、時間の関係もございますので、机上に置かせていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。</p> <p>それでは、委員の皆様は、今回が初顔合わせとなりますので、一言ずつ、簡単に自己紹介をお願いします。</p> <p>なお、長谷委員につきましては、本日所用のため欠席されておりますことをご報告します。</p>
委員	<p><自己紹介></p>
政策課長	<p>つづきまして、事務局職員を紹介します。</p>
事務局	<p><事務局自己紹介></p>
政策課長	<p>次に、会議の公開についてですが、さぬき市附属機関等の委員の構成及び会議の公開に関する指針及びさぬき市情報公開条例に照らし、市の会議は原則公開であります。本有識者会議も、同様に公開とさせていただきますのでご了承ください。</p>
委員	<p>了解。</p>
政策課長	<p>なお、本日の傍聴者は2名です。会議途中で傍聴希望があった場合には、随時許可することといたします。それでは、傍聴者に入室いただきます。</p>
政策課長	<p>それでは議事に入ります。議題（1）「座長と副座長の選任」を行います。</p> <p>さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第5条第2項の規定に座長は委員の互選により定めることとなっております。いかがいたしましょうか。</p>
委員	<p>事務局案は？</p>
政策課長	<p>事務局としては、昨年度まで本会議の座長を務められ、地方行政に関するご経験やノウハウを持ち、香川大学経済学部長であられる長山委員にお願いしたいと思っております。</p>

	が、いかがでしょうか。
委員	<拍手>
政策課長	<p>それでは、座長を長山委員にお願いいたします。</p> <p>また、副座長でございますが、当該設置要綱第5条第4項において、座長に事故があるときは、あらかじめ座長が指名する委員がその職務を代理するとございますので、座長に副座長を指名いただきたいと思います。長山座長、いかがいたしましょうか。</p>
座長	さぬき市商工会の会長や、過去にはさぬき市消防団長を務められるなど、市の施策や地域の実情に精通しておられます米田委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。
委員	<拍手>
座長	それでは、副座長を米田委員にお願いいたします。
政策課長	それでは、正副座長を代表して座長のごあいさつをお願いします。
座長	<座長挨拶>
課長	これよりの進行は、座長をお願いします。
座長	<p>わかりました。まず、本日の会議ですが、議事が膨大ではありますが、概ね17時00分を目途に終了したいと考えておりますのでご協力をお願いします。</p> <p>それでは、議題2に入る前に事務局から改めて今年度の有識者会議の役割等について説明をお願いします。</p>
事務局	<事務局説明>
座長	それでは、議題(2)「第2期さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略KPI達成状況について」を、事務局から説明をお願いします。
事務局	<事務局説明>

座長	質問やご意見はありませんか。
座長	<p>基本目標のところ、一番出生数の下振れが大きい。一般的には、その地域の出生数は、婚姻数が決定する。日本の場合は、婚姻した方から子どもが生まれる率が高い。婚姻数自体が減っているのか。市の施策で、婚活パーティーの支援事業がある。令和5年度の実績で、婚活イベントによるカップルの成立数が0組となっているが、ここら辺はコロナ禍でパーティーができなかったのもある。</p> <p>行政的には、さぬき市で去年結婚した人は、特段集計はされているのか。</p>
事務局	市民課で集計している。人口減少とともに把握している。
座長	<p>原則的に婚姻数が減ってしまった場合、そこから後に赤ちゃんが生まれる可能性は低くなる。すでに市でも取り組んでいるが、結婚する意志がある方が結婚できるように婚活パーティー以外にも何か施策を考えないといけないのではないか。</p> <p>一番は、若者が沢山稼げるようになれば結婚するのではないと言われるが、若者が稼げるようにするのは、さぬき市の力だけでは難しいと思う。ちょっとでも若い人が相手を見つけて結婚できるように、もう少し頑張らないといけない。出生数は、令和5年が158人。ここ6年間で70人減っている。多分下げ止まりではないので、どこかで止める算段がないと、最終的にはお手上げになってしまう。緩和できるような施策が追加で欲しい。</p>
委員	<p>TAGATAMEという名前でも有機農業をしているグループがある。一人を除いて全員が20～30歳代。ほとんどが移住者で、これから子どもを産む世代の人たちで、独身の人もいるし結婚して農業をしようという人もいる。子育てをするのに農業は適している。会社に行くわけではないので、子どもを見ながら仕事ができる。農業をすると生活にかかる費用が減る。地方に住むと固定費が減ると思う。20～30代の若者は、車の運転ができるので、さぬき市はちょうどいい環境である。生活に困らず自然が豊かでとても住みやすい。移住するためには仕事が必要だが、有機農業であれば初期費用が少なくすむ。若者が移住して生活する上で、良い職業かと思う。さぬき市の魅力を広く知ってもらえれば。</p>
座長	<p>給料の水準は、東京と比べてしまうと低くなってしまっているので、それ以外の魅力がないといけない。大学に行かせるとなるとさらに厳しくなる。厳しい面もあるが、地方だと住居や食費など生活費は安くすむので良いかと思う。</p>

	<p>あまり子どもが少なくなると、小中学校が統廃合などで、遠くなってしまふことを懸念している。子育てするには厳しいように感じる。ただ、子どもの成長のために、複式学級になるくらいであれば、統廃合したほうが良いようにも思う。中学校の単級学校もできたら避けたほうがいい。団塊ジュニアの世代であれば、地方でも1学年4クラスの学校は沢山あった。今は、4クラスだと中学校は1校で良い。しかし、統廃合を過度に進めてしまうと、小中学校が遠いといったことがある。保育所等も同様だが、バランスが難しい。どこら辺に市民に住んでもらうかも重要である。良くも悪くも香川県は、市街化調整区域はないので、どこにでも住むことができる。住民からすれば、香川県は居住地の選択肢が多く、例えば農業もしやすいといった状況であるため、市がどのように推進していくかだと思う。</p>
委員	<p>モノづくりの発信と空き家の利活用事業をしている。大きな括りの話になるが、香川県におけるモノづくり産業と、地域課題として空き家が増えていることに着目して二つの事業を行っている。特に、伝統工芸を主軸にしている。現状は、後継者不足と伝統工芸品を買うお客さんが減っている。人口減少が進むと、伝統工芸品を買って引き出物にするとか、そういう需要も少なくなっていることが課題としてある。そこで、住む人を一定数増やすよりも減らさない工夫をしたらどうかと考えた。子どもを増やすというのは、その支援施策は大事だが、先を長く見たときに、子どもが大人になって工芸品を買うまでに時間がかかる。まずは、大人にこの土地を気に入ってもらって、外から住んでみようという移住者をどう増やそうか、というところに着目した。そこに仕事や住むところが必要になってくるので、空き家を買っていただいて（まずは賃貸）定住につなげたい。こういった人たちが来やすくなるような施策をしてはどうか。最終的には、子育てをしたいと考える母数が増えたら良いと思う。</p> <p>まず、空き家で住んでいる人たちが楽しく住んでいるかということも大事であり、空き家を利活用できるような産業を誘致したり、住む人たちがお店を開いても良いと思っている。</p> <p>市には農地付きの空き家が多いと思うが、農地付きの空き家は、そもそも学校から遠いイメージ。ただ、かつてその場所に住んでいた人は、当たり前のように通っていた。つまり、住む場所はあまり関係なく、その土地が持っているポテンシャルを見直し、磨き上げる必要があると思っている。</p>
座長	<p>さぬき市には、ファミリー向け賃貸専用物件は少なかったと思う。単身者用であれば価格の低い物件は多くあり、また、徳島文理大学が移転してしまうので、志度には、単身者用の物件はたくさん残るかと思う。そこをファミリー向けに転用できればうれしいが、構造が異なるため難しいのか。家庭を持った人が移住して、いきなり一戸建</p>

委員	<p>での購入は難しいかもしれない。貸してもらえの良い物件がたくさんあると良いかもしれない。ただ、さぬき市は広いので、人口を誘導するにしても、最近人気が出てきている長尾地区とのバランスを考える必要がある。</p> <p>さぬき市は海が広く山が広い。それをデメリットとして考えるかメリットとして考えるか。こういう場になるとデメリットの話が先に出てきてしまいがちだが、私から見るとメリットとして見えてくる。実際に地方に移住しに来る方がいるように、そういった人たちが着目できるきっかけを用意してあげるのが大事かと思う。</p>
委員	<p>住宅の確保は人を呼び込むには重要。きっかけ作りの一つの例として、知り合いの農業をしている人は、持ち家で、とても広い古民家なのでシェアハウスとして提供している。家賃や光熱費を負担する代わりに、農業者として独立するまで生活費を保障している。お金になるまでの間の体制づくりを個別に行っている。一年に3名までしか受け入れられないので、市内の事業者が同様の取り組みを行うにあたり、市がそこに助成をすれば、参入しやすいのではないか。</p>
委員	<p>若者は外に出ていくが、市内に仕事がなくやむなく外に出る人が多いと考えられる。さぬき市出身で、市外県外で起業をされた方もいる。さぬき市のことが忘れられない人もいる。恩返ししたい人もいるだろう。その方々を調べてみて、会社を市に持って帰ってもらうのはどうか。企業誘致も、西高東低。東讃地域は、昔から色々と遅れていると言われている。それは、企業が市にできないからであると思う。</p> <p>外の企業も、周りの了解を得られさえすれば、さぬき市に来る余地がある。市の所有地も手つかずの所があるが、そのあたりも活用していければと思う。</p> <p>市内の学校も統合された後、建物はそのままになっているので、もう一度見直してもらいたい。ぜひさぬき市に来てほしいといったPRが出来たら良いと思う。働く場所があれば、人は残る。一旦外に出ても、改めてさぬき市に行こうとか遊びに行こうとか思う人が増えるだろう。</p>
座長	<p>香川県は、大学進学時の残留率は全国でワースト3に入ると思う。普通は30%あるが、県は、17%だと聞いている。ほとんど変更の余地がない。なので、県外に出て行って戻ってくるのは相当に厳しい。せめて香川県に他所の県から来た方が残ってほしい。少しでも戻ってきてほしい。大部分の方が出て行ってしまいう状況は、10年20年は変わらないと思う。</p> <p>県の西部は製造業が集積していて、給料の水準は西部の方が高くなる。大手の製造子会社があると、地域の給与水準は上がる。ただ、市の努力では難しいところだ。</p>

<p>委員</p>	<p>さぬき市の中で、さぬき市のことが大好きで、郷土愛・企業愛にあふれる企業は、どこだろうか。</p> <p>そのような企業があれば、そのまちは、ポテンシャルがあるという考え方がある。</p> <p>例えば、三豊市。観光で人気上がり、第2、第3ステージと、どんどん変わってきている。その仕組みは、まず、その地に移住してきた方が盛り上げている小さなコミュニティがあつて、それが集客装置となり、似たような人たちが集まってくる。それをバックアップしている企業がある。そして、その活動は一か所だけ、ではなくて、それぞれが協力して一体となり進めていく形である。私はこの地域を盛り上げる、僕はこのまちをこうやっていこうといった、相互に関係性がある。</p> <p>良い面だけでいうと、これらの活動は外から見ると、まとまって動いているように見える。地域が元気であるように見える。あちらの市とこちらの市、どっちに行こうかなといったときに、元気そうだからという選択の優先順位になる。そういうのが三豊市であった。</p> <p>起爆の話でいうと、写真コンペに参加するなど、三豊市の観光協会と一緒に仕事をしているが、色々仕掛けた中で、父母ヶ浜がヒットしたというのがある。父母ヶ浜という観光資源をいきなり推し進めていない。色々手を打ちながらやっている。手がけている雑誌では、父母ヶ浜が日本のウユニ塩湖と有名になる前に特集記事を書いたりしている。そういうことを小さく打っている。今は、社員の女性が三豊市と仕事をしているが、このように、若くてキャッチーな人が動いて、地域の企業や行政がちゃんとバックアップしてくれる体制が重要だと思う。</p> <p>話は戻るが、さぬき市の企業は元気だろうかということを知りたい。</p>
<p>委員</p>	<p>規模は小さいが、元気な企業は何社か知っている。そういった企業たちの動きがまとまった動きになるといいなと思う。</p> <p>このような会議では、行政はといった言い方になるが、そうではなくて、企業などそこに住んでいる一人一人が役割を持って、ちゃんと役割を果たせている？次はどうする？といった考えにならないと本来の取組にはならないのではないかな。</p>
<p>座長</p>	<p>経営者のカラーもあるが、企業も地域貢献はしたいと思う。少しでも地域貢献、積極的な企業が増えたほうが良い。当然、資金面だけではなく、地域のために何かお手伝いをしてくれるだけでも、受け手側は大分楽だと思う。力を結集するために、一つ一つの企業では難しいと思うが、商工会が間に入っているパターンが多いのだろう。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、Uターン移住組である。香川県に魅力を感じられずに都市部に出て、その後、</p>

	<p>タイミングで帰ってきた。そして、自分たちが面白いと思う事業をしていたら、行政の方々に見つけてもらった。積極的にこんなことをやっていますというアピールはしていない。自分たちで面白いことを小さくやっていたら、地域ごとにつながるようにしてもらった経緯がある。自分たちのように、活動はしているけども発信はしていない人は沢山いるだろう。それを見つけてあげることも必要だと思う。</p>
座長	<p>確かに、すでにある活動を育てたほうがはるかに速い。誰かがやっているのであればそれを見つけたほうが、お金もかからないし時間も節約できる。もう一度、地元でどういう活動をしている人がいるかを探す方が急がば回れであり、2軸でやれば良い。新しいことをやっていくことだけが、地域創生ではない。</p> <p>次に、議題（3）資料2について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><事務局説明></p>
座長	<p>次期まち・ひと・しごと総合戦略の策定方針について何か質問があるか。枠組み自体は変わらず、従来と比べ、デジタル田園都市国家構想基本方針に伴う事項が追加されているようだ。徳島県はデジタル田園都市国家構想に伴う事業が盛んに行われていて、ものづくりの高専ができるなど、脚光を浴びている。徳島県と比べて香川県は地味に感じる。元々、香川県は情報産業が少ないからだと思う。外注すればもちろんビジネスとしては成り立つ。香川県としては、苦手なところかと思うが、少しでもDX化を取り入れることで、高松市やさぬき市、どこでも仕事ができるように整備するのも方法の一つだと思う。徳島県では、ネット回線を太くして少しでもストレスがかからないようにしている。</p> <p>ご質問はあるだろうか。</p>
委員	<p>人口ビジョン策定の話があったが、ほぼ出来ているのか。新しい人口推計の計画を教えてください。</p>
事務局	<p>人口ビジョンを作成するための内閣府の基礎資料が6月に出たばかりなので、他自治体含め横並びで作っている。本市も現在作成中であり、次回の有識者会議では、人口ビジョンを(案)として、示すことが可能である。</p>
委員	<p>さぬき市の将来の人口推計値は厳しいものになると思う。</p>
座長	<p>人口ビジョンについて、次回の会議までには、確定ではないが、骨格部分ぐらいはお</p>

	<p>示しいただいて、有識者の皆さんが考えているよりも、ちょっと辛い数字になると思うが、それをより良い状態にするために、次期総合戦略の策定に生かしていこう、そのためには様々なツールを駆使していこうというわけである。</p> <p>マスタープランであるさぬき市全体の総合計画の期間は令和8年度までであり、総合戦略は令和7年度から11年度までの期間である。期間がずれているため、市役所側でも確たることは言えないと思うが、第3期のマスタープランである基本計画については、これから考えることだと思う。</p> <p>議題（3）資料3について説明をお願いします。</p>
事務局	<事務局説明>
座長	<p>総合計画や総合戦略については、総花的になってしまうのだが、施策はどうしてもバランス良くとなってしまう。今回も、内容を精選した結果、現行の総合戦略に記載している事業は、すべて維持させてほしい、ということだ。</p> <p>個別説明にあった、空き家のマッチングもAIで行っていくということで、注意するポイントは、農地付きの空き家では、農業委員会をかませないといけないことかと思う。これは、国が定めた法律なので仕方がないが。農業委員会は、農家しか入れないのか。</p>
委員	<p>農地利用最適化推進委員の方は、農業者でなくても務めることが出来る。農業のことをわかっていないと判断できないことが多いので、農業者が多数派である。田畑は関係なくて、養鰻をされている方もいる。</p>
座長	<p>農地を使用する際は、原則的に農業委員会の許可がいる。勝手に田んぼを買って農業を行うことはできない。</p>
委員	<p>農地付きの空き家を借りたい、購入したいといった申請もあり、農業委員会として審査のうえ許可している。家庭菜園を始めたい方も農業者として認められてきている。</p>
座長	<p>農業委員会がボトルネックになって、農地付き空き家や賃貸が滞るということはないということか。</p>
委員	<p>さぬき市は駆け出しの農家にすごく優しく接してくれる。地域も新規にやってくる人に温かいと感じる。農地よりも、空き家を買うときに、空き家が古く、そもそも住宅ローンが組めず、お金の問題がネックになって話が進まないといったことがある。</p>

座長	<p>公共交通施策も辛いと思う。お年寄りの方は公共交通機関がないと病院にも行けない。金銭的にも厳しい。少しでも相乗りできるようA Iでマッチングする仕組みが出来れば。ただ、経費はかかる。</p> <p>結婚出産子育て施策は、どの自治体でも似たような内容になっている。</p>
委員	<p>施策のデジタル化を考えるうえで、何でもデジタル化をすることが良いことではない。デジタル化することで手間が増えるのであればやるべきではない。住民のニーズや職員の負担を減らし、本来必要なフェイストゥフェイスの取組ができるようにするというのがDXである。システムを入れることやインターネットにすることがDXではない。市民サービスを必要とされている方がどういう方かをしっかりと見て、その方に合うような形でデジタル化をする。「サービスデザイン」の思考を大事にしてほしい。データとデジタルを活用して、住民の方々や企業等に提供する価値、サービスを変革する、というところがDXである。単純に、何かをデジタル化したりシステムを入れるのではなく、最終的に住民の方も職員の方もハッピーになるように考えることが本当のDXである。</p> <p>具体的なDXの取組については、市プロジェクト推進室ともやり取りをしているので、声をかけてもらえれば、対応できる。</p> <p>何回も言うが、単にデジタル化をするのではなく、サービスをデザインすることを心掛けてほしい。</p>
座長	<p>さぬき市ができることから始めて、無理をする必要はないということか。</p>
委員	<p>例えば、10枚の手書き書類があり5枚がインターネットで5枚が紙のままなら手間が増えるだけ。すべて紙のほうがいい。</p>
座長	<p>お年寄りが使う比率が多い場合は、デジタル化しない方が良い場合もある。デジタル化する方が得だというものから進めるべきだろう。</p>
委員	<p>デジタル化の話で、知り合いのおばあさんから農地を譲ってもらったことがある。その方は、旦那様が亡くなられ、一人で農業を続けられないからということだった。その際、相続登記の書類作成の手伝いをしたが苦勞した。マイナンバーカードに紐づけて、簡素化できないのだろうか。</p>

座長	<p>国の不動産登記の仕組みは今でも紙ベースなのか。 住民票などは、マイナンバーと紐づけしてコンビニ交付などが可能となっている。</p>
委員	<p>相続手続きに必要な戸籍証明書について、全国の自治体で電子交付できるような話がある。国のほうでも時間と手間を削減するためデジタル化に向けて進んでいる。 国がやるべきこと、自治体やるべきことがある。予算の関係があるので、優先順位をつける必要がある。</p>
委員	<p>色々なことがシステム化されているが、まだ玉石混合なので、本当に必要なものに優先順位をつけていかないと、予算が無くなる。</p>
座長	<p>戸籍謄本は、私が若い頃は本籍地までいかないともらえなかった。</p>
事務局	<p>今は、どこの自治体でも出してもらえるようにはなっている。</p>
座長	<p>他にご意見ないか。</p>
委員	<p>子育て関係で、人口を増やすために、婚姻を増やすきっかけづくりや出生数が良くとりあげられているが、その裏で離婚も増えているのではないかと思う。シングルマザーで貧困につながっていくケースもある。離婚したら子どもは増えない。離婚に至らないように支援をすることで、子どもも増えてくるのではないかと考えている。</p>
座長	<p>子どもの数が増えなくても、子どもの貧困問題は改善の必要性がある。子育て支援は、出生数の改善だけに特化しない方が良いのかもしれない。幸せな家庭を継続できるような支援をすることが、新しく家庭を持つ人へのサポートと同じぐらい重要なのではないか。</p> <p>日本の場合、結婚した人の90%以上が子どもをもうけている。是非はあるかと思うが、原則的にご結婚された方が子どもを持つ文化がある。幸せな結婚生活が続くような支援が必要で、子育て支援にもなるし、お子さんも増えるかもしれない。</p> <p>また、離婚された後も、子どもの貧困問題に対するサポートや高齢者への支援も、より良いまちになるために、そしてみんなが幸せになるためには重要かと思う。</p> <p>議題(4)全体のスケジュールについて説明をお願いします。</p>
事務局	<p><事務局説明></p>

座長	何かご意見や全体を通して聞き忘れはあるだろうか。 事務局から、事務連絡はあるか。
事務局	<事務連絡>
座長	以上で、本日の会議を終了します。 ありがとうございました。
< 閉 会 > (17:00)	